

いのちの作法

生命の尊厳とは何か？ 福祉社会とは何か？
地方行政の姿から、日本のあるべき姿が、未来が見える。

■内容■

昭和30年代に、豪雪・貧困・多病多死の三重苦を乗り越え、全国に先駆けて老人医療費の無料化と乳児死亡率ゼロを達成した岩手県西和賀町（旧沢内村）は、合併した現在も、いのちを大切にするという「生命尊重の理念」を町是に掲げる、日本では希有の品格と哲学を持った町です。「住民の生命を守るために、私の生命をかけよう」と宣言した当時の深沢晟雄村長と、住民が共に築き上げたその理念は、若い世代にも脈々と受け継がれています。

本作品は深沢晟雄村長についての証言に始まり、その理念を受け継ぐ若い世代を映し出します。老人や障がい者、そして、児童養護施設の子もたちの生命に向き合いながら、地域に生きることを模索している西和賀町の人々の姿は、私たち日本人に、改めて本当に価値のあるものを教えてくれます。

■解説■

本作品は、日本映画学校（神奈川県川崎市）を卒業したばかりの都鳥拓也、都鳥伸也兄弟が、及川和男著の『村長ありき』（新潮文庫）に感銘を受けて企画しました。「生命の尊さ」という今まさに日本人が見つめるべきテーマに、二人の恩師である武重邦夫が、その企画の実現を決意しました。監督は、記録映画界の最前線で活躍する小池征人。前作の記録映画『白神の夢ー森と海に生きるー』で世界遺産・白神山地の懐に抱かれた生命を見つめた実績から白羽の矢が立ちました。撮影には、監督の盟友である一ノ瀬正史が決定。2006年8月にクランク・インしました。

スタッフは西和賀町に住み込み、夏三ヶ月、冬三ヶ月の長期撮影を敢行。130時間にも及ぶ記録を『Shall We ダンス?』（監督・周防正行）など数々の日本映画の編集を手がける菊池純一が、西和賀の美しい風土と文化を織り交ぜながらまとめ上げました。録音は、若林大介。助監督は、中越信輔。音楽は、森拓治と長谷川光。ナレーターには伊藤惣一が参加しました。ベテランと若者が組み、珠玉の記録映画が誕生しました。



■北杜上映実行委員会を代表して■

私たちは昨年暮に東京でこの映画を見ました。見終わって「このような人々、地域があったんだ」と胸が熱くなりました。今の社会が忘れてきていること、人間にとって一番大切なことが描かれているような気がして、ぜひ多くの人に見て欲しいと思い、北杜市で自主上映するのが来年の夢、と日記に書きました。その夢が多くの仲間の協力で実現しようとしています。この映画をきっかけとして、思いがけない出会いや出来事があり、人の輪が広がっていくのを日々感じています。

「宝物のようなことばがたくさんあったね」一緒に映画を見た方の感想です。初めての自主上映、ちょっと不安もありますが楽しみでもあります。ぜひ見にいらしてください！（北杜市小淵沢町 風路周平・和子）

■感動しました、この感動をあなたに■

「命に差別があってはならない」と村長の残した遺産が次の世代その次の世代と受け継がれ発展している今の姿に感動しました。

自分自身の身の回りで、生まれて来る命、去って行く命に対してどのように接していくか、どう行動するか、あなた自身の「いのちの作法」を考える機会にしませんか。（北杜市武川町 重田友五郎）

■健やかに生きるヒントが満載■

人が人らしく生きる。いのちに差別があってはならない。そんなメッセージを発信している一陣の涼風のような映画に出会って、勇気を貰いました。戦争・飢餓・貧困・医療と福祉の問題・環境問題・未曾有の経済不況と、多くの不安に脅かされている地球と、そこに生きる我々現代人に光を与えてくれる、福音のような映画です。（北杜市高根町 富田雄一郎）

■チラシのデザイン■

この映画を観て、是非多くの人に観て欲しいと思ったんです。そのために私ができることとして、このチラシのデザインをさせていただきました。

皆さんがこの映画を観ようという気持ちの切っ掛けの一つに、このチラシが役だってくれば幸いです。（北杜市長坂町 清水稔三/やつねっと）



「いのちの作法」北杜上映実行委員会 〒408-0044山梨県北杜市小淵沢町10122

チケット：表面の連絡先までお願いいたします。 連絡先未記入の場合は、下記の問い合わせ先へどうぞ。

問い合わせ：電話 0551-36-3826（ペンション風路） メール furo@kobuchisawa.gr.jp

会場・北杜市長坂コミュニティーステーション・ホール（JR中央線長坂駅前）電話 0551-32-8228